

Oxford Reading Tree Level 7 Stories

- ① Red Planet 「赤い惑星」
- ② Lost in the Jungle 「ジャングルで迷子」
- ③ The Broken Roof 「壊れた屋根」
- ④ The Lost Key 「なくなった鍵」
- ⑤ The Willow Pattern Plot 「柳模様計画」
- ⑥ Submarine Adventure 「潜水艦の冒険」

Red Planet 「赤い惑星」

- PG 1: Wilf came to play with Chip. They made a rocket ship out of bits and pieces.
The rocket ship looked quite good.
ウィルフがチップのところへ遊びに来ました。二人はガラクタを使って宇宙船を作りました。
宇宙船はかなり格好良く見えました。
- PG 2: Wilf and Chip played in the rocket ship. They pretended to be spacemen.
“The rocket is going to take off,” said Wilf.
“Five...four...three...two...”
ウィルフとチップはロケットの中で遊びました。
二人は宇宙飛行士のふりをしました。
「ロケットが離陸します」とウィルフが言いました。
「5...4...3...2...」
- PG 3: Floppy ran up. He wanted to get in the rocket ship with Wilf and Chip.
“Go away, Floppy,” called Chip. “The rocket is going to take off!”
フロッピーが走って来ました。フロッピーもウィルフとチップと一緒にロケットに乗りたかったのです。
「あっちに行ってよ、フロッピー」とチップが叫びました。「ロケットが離陸するんだから」
- PG 4: Nadim came to play.
He had his computer with him, but he liked the look of the rocket ship.
He wanted to play in it too.
ナディムが遊びに来ました。
ナディムは自分のコンピューターを持ってきましたが、ロケットの方がおもしろそうに見えました。
ナディムもロケットで遊びたいと思いました。
- PG 5: Just then, it began to rain. “There’s not room for all of us,” said Chip.
“Let’s go inside and play with Nadim’s computer.”
その時雨が降り始めました。「全員は入れないよ」とチップが言いました。
「中に入ってナディムのコンピューターで遊ぼうよ」
- PG 6: They played a game on the computer. It was called Red Planet.
They had to land a rocket on the planet. Wilf and Chip crashed the rocket.

Nadim didn't. He was good at the game.

三人はコンピューターでゲームをしました。「赤い惑星」というゲームでした。

三人は惑星にロケットを着陸させなければなりませんでした。

ウィルフとチップはロケットを墜落させてしまいました。

ナディムは違いました。ナディムはゲームが上手でした。

PG 7: Suddenly, the magic key began to glow.

Chip and Wilf pulled Nadim away from the computer and ran into Biff's room.

"Come on," called Chip. "It's time for an adventure."

そのとき、マジックキーが光り始めました。

チップとウィルフはナディムをコンピューターから引き離し、ビフの部屋に走って行きました。

「さあ、行こう」とチップが叫びました。「冒険の時間だ」

PG 8: The magic took them to a rocket ship. It took Floppy too.

The rocket looked as if it was about to take off, but the door was open.

Nadim wanted to look inside the rocket.

魔法の力が三人を宇宙船に連れて行きました。フロッピーも一緒でした。

ロケットは今にも離陸しようとしていました。でも、ドアが開いていました。

ナディムはロケットの中を見たいと思いました。

PG 9: "Come on," he called.

Chip didn't want to go inside. "It may not be safe," he said.

"Why not?" said Nadim. "This is a magic adventure."

「さあ行こう」とナディムが大声で言いました。

チップは中には入りたくありませんでした。「安全とは限らないかもいよ」とチップが言いました。

「どうして？」とナディムが言いました。「これは魔法の冒険だよ」

PG 10: They went inside the rocket. There was nobody there.

"Look at this computer," said Nadim.

Floppy jumped up and put his paw on a button.

子どもたちはロケットの中に入りました。そこには誰もいませんでした。

「このコンピューターを見て」とナディムが言いました。

フロッピーが飛び上がって、足をボタンの上に置きました。

PG 11: Five...four...three...two...one. The rocket began to take off.

Up it went and out into space.

"Oh no!" said Chip. "I don't know where we're going."

5...4...3...2...1。ロケットが離陸し始めました。

ふわりと浮き上がり、宇宙へと飛び立ちました。
「どうしよう！」とチップが言いました。
「ぼくたち、どこに向かっているんだろう。わからないよ」

- PG 12: They began to float about inside the rocket.
Nadim found some boots. He put them on.
“We must put these boots on,” he said.
“They will keep us down on the floor.”
ロケットの中でみんなの体がふわふわと浮き始めました。
ナディムが何足かのブーツを見つけました。ナディムはそれを履きました。
「このブーツをはかなくちゃ」とナディムが言いました。
「そうすれば床に立っていただけるようになる」
- PG 13: They went to the window and looked out. They saw a big red planet.
“We are going to land on that planet,” said Nadim. “We will soon be there.”
みんなは窓に行って外を見ました。三人は、大きな赤い惑星を見ました。
「ぼくらはあの惑星に着陸するんだ」とナディムが言いました。
「もうすぐ着くよ」
- PG 14: Nadim made the rocket land.
“I wouldn’t like to do that again,” he said.
“It’s a good job Nadim knows about computers,” thought Wilf.
“I wouldn’t like to crash here.”
ナディムはロケットを着陸させました。
「もう二度とやりたくないよ」とナディムが言いました。
「ナディムがコンピューターに詳しくて助かった」とウィルフは思いました。
「ここで墜落したくないもの」
- PG 15: There was red dust all over the planet.
There were red rocks and red mountains. Floppy didn’t like to look of it.
He began to bark and bark.
“There are no trees,” he thought.
その惑星は赤いちりで覆われていました。そこには赤い岩と赤い山がありました。
フロッピーはその様子が好きではありませんでした。
フロッピーは吠え始めました。
「木が一本もない」とフロッピーは思いました。
- PG 16: They wanted to go outside and look at the planet. They found a space buggy.
They looked in the space buggy and found some spacesuits.

子どもたちは外に出てこの惑星を見たいと思いました。すると、宇宙用バギーを見つけました。その宇宙バギーの中を覗くと、そこには宇宙服がありました。

- PG 17: “Let’s put these spacesuits on,” said Wilf. “Then we can go outside.”
“Do you think it will be safe outside?” asked Chip.
“I don’t know,” said Wilf.
「この宇宙服を着よう」とウィルフが言いました。「これで外に出られるぞ」
「外は安全だと思う？」とチップが聞きました。
「さあね」とウィルフが言いました。
- PG 18: They went out on the planet in the buggy.
The buggy bumped over the rocks and the red dust flew up.
“I don’t like this,” thought Floppy.
“I’m not made for space adventures.”
子どもたちは宇宙バギーに乗って惑星の上に出ました。
バギーはがたがた揺れながら岩の上を進み、赤いちりが舞い上がりました。
「ぼくこんなの嫌だ」とフロッピーは思いました。
「ぼく、宇宙冒険には向いていないんだ」
- PG 19: Suddenly the ground cracked and a big hole opened up.
“Oh help,” said Chip, Wilf, and Nadim as the buggy fell into the hole.
突然、地面が割れ大きな穴があきました。バギーがその穴に落ちていく
中、「助けて」とチップ、ウィルフとナディムが言いました。
- PG 20: They fell down and down inside the planet.
“I don’t like this,” thought Floppy. “I want to go home.”
みんな惑星の中へ中へと落ちて行きました。
「こんなの嫌だ」とフロッピーは思いました。「家に帰りたいう」
- PG 21: They all landed with a bump. The buggy landed with a crash and broke in two.
They were inside a big cave.
子どもたちはドシンと音を立て、着地しました。バギーはガシャンと真っ二つに壊れました。子どもたちは大きな洞窟の中にいました。
- PG 22: “What a place!” said Wilf. “Look at it.” Chip looked at the buggy.
“It’s broken,” he said. “It’s had it!” “How will we get back to the rocket?”
「なんてすごい所なんだ！」とウィルフが言いました。「見てよ」
チップはバギーを見ました。
「壊れちゃった」とチップが言いました。「もう、これはだめだ！」

「どうやってロケットに戻ろうか？」

- PG 23: Floppy began to bark. There were some creatures in the cave.
They looked like funny little people.
“Oh no!” said Nadim. “Look at them! I hope they like us.”
フロッピーが吠え始めました。洞窟の中に、何か生き物がいたのです。
おもしろい姿をした小さな人間のように見えました。
「大変だ！」とナディムが言いました。
「あの生き物たちを見てよ！ ぼくらを気に入ってくれるといいけど」
- PG 24: The creatures looked at the boys.
They climbed on the broken buggy and pulled out a spacesuit.
One of them turned a tap on Floppy’s spacesuit.
その生き物たちは、少年たちを見ました。
生き物たちは壊れたバギーによじのぼり、一着の宇宙服を引っ張り出しました。
そのうちの一匹が、フロッピーの宇宙服の栓を回しました。
- PG 25: Floppy’s spacesuit began to fill with air.
It got bigger and bigger. Then Floppy began to float.
“Get Floppy!” yelled Chip. “Don’t let him float away!”
フロッピーの宇宙服が空気でいっぱいになりました。
それはどんどん大きくなりました。フロッピーは浮き始めました。
「フロッピーを捕まえて！」とチップが叫びました。
「フロッピーを飛んで行かせないで！」
- PG 26: Wilf asked the creatures how to get out of the cave.
They told him that there was no way out.
They said that they had never been outside.
ウィルフが生き物たちに、どうやって洞窟から出たらいいか聞きました。
生き物たちは、出口はないと言いました。
生き物たちは、一度も外に出たことがないと言いました。
- PG 27: Wilf had a good idea. He took a spacesuit out and he filled it with air.
The space suit got bigger and bigger. It began to float up and up.
ウィルフに名案が浮かびました。
ウィルフは宇宙服を一つ取り出して、それに空気をいっぱい入れました。
宇宙服はどんどん大きくなりました。そして上へ上へと浮かび始めました。
- PG 28 “Hold on,” called Wilf, “and don’t let go!”
The spacesuit floated up out of the cave.

“We can float back to the rocket,” said Chip. “What a good idea!”
“I hope it won’t go pop,” thought Floppy.
「つかまって」とウィルフが叫びました。「離しちゃだめだよ！」
その宇宙服は浮かび上がり洞窟の外へ出ました。
「ぼくらはロケットまで流れて戻ればいい」とチップが言いました。
「なんて、良い考えなんだ！」
「パンとはじけなければいいんだけど」フロッピーは思いました。

- PG 29: They floated back to the rocket.
Wilf let the air out of the spacesuit and it came down to the ground.
“Good old Wilf!” said Nadim.
“I don’t like floating,” thought Floppy.
子どもたちは漂ってロケットまで戻りました。
ウィルフが宇宙服から空気を抜くと、宇宙船は地面に降りていきました。
「やったぞ、ウィルフ！」とナディムが言いました。
「ぼく、ふかふか浮かぶのは好きじゃないや」とフロッピーは思いました。
- PG 30: They went inside the rocket and it took off.
Nadim turned on the computer and looked at the screen.
“We’ll soon be home,” he said.
子どもたちはロケットの中に入り、離陸しました。
ナディムがコンピューターを起動させ、画面を見ました。
「もうすぐ家に着くよ」とナディムが言いました。
- PG 31: Just then the magic key began to glow.
“That’s good,” thought Floppy. “They won’t have to land the rocket. Dogs don’t like space adventures”
その時、マジックキーが光り始めました。
「良かった」とフロッピーは思いました。
「子どもたちがロケットを着地させなくていいんだ。犬は宇宙の冒険なんか好きじゃないんだ」
- PG 32: The magic took them back home.
“I liked that adventure,” said Wilf.
He looked at the little spacesuit.
So did I,” said Nadim, “but I’m glad I didn’t have to land that rocket again.”
魔法の力がみんなを家に連れて帰りました。
「あの冒険、気に入ったよ」とウィルフが言いました。
ウィルフは小さい宇宙服を見ました。
「ぼくもだよ」とナディムが言いました。
「でも、あのロケットをまた着陸させなくて済んで、ほんとはよかったなあ」

Lost in the Jungle 「ジャングルで迷子」

- PG 1: The next day was Mum's birthday. Chip had a box of chocolates for her. Kipper had made her a monkey at school. Biff didn't know what to get.
明日はママの誕生日です。チップは箱入りのチョコレートを用意しました。
キッパーは学校でママのために猿を作っていました。
ビフは何を用意すればいいのかわからずにいました。
- PG 2: Biff asked Anneena's mum to help her buy a plant. They went into a big greenhouse. The greenhouse was hot, and it was full of plants.
ビフはアニーナのママに、植物を買うのを手伝ってくれるようお願いしました。
みんなで大きな温室へ行きました。温室は暑くて植物がたくさんありました。
- PG 3: "What a lot of plants!" said Biff. "It's like a jungle in here. I don't know which one to buy."
In the end, she found one that she liked. "I'll get this one for Mum," she said.
「なんてたくさんの植物でしょう」とビフが言いました。「ここはジャングルみたいだわ。私、どれを買ったらいいのかわからない」
ついに、ビフはお気に入りを見つけました。
「ママにこれを買ってあげよう」とビフが言いました。
- PG 4: The next day was Mum's birthday and the children gave her their presents.
Mum liked them all.
"Thank you," she said. "What a lovely plant, Biff!"
次の日はママの誕生日でした。子どもたちはプレゼントを渡しました。
ママはそのプレゼントが全部気に入りました。
「ありがとう」とママが言いました。「何て素敵な植物なの、ビフ！」
- PG 5: Dad had a present for Mum. It was a plant.
"I didn't know Biff had a plant as well," said Dad.
"I don't mind a bit," said Mum.
パパもママにプレゼントがありました。それは一鉢の植物でした。
「ビフも植物を用意してたなんて、知らなかったな」とパパが言いました。

「私はちっとも気に入らないわよ」とママが言いました。

- PG 6: Anneena came to play with Biff and Chip.
“This is from my mum,” she said. Wilma’s mum came round with a plant too.
“Thank you,” said Mum. “I love plants. It’s quite like a jungle in here.”
アニーナがビフとチップと遊びに来ました。
「これは私のママからです」とアニーナが言いました。
ウィルマのママも植物を持ってやってきました。
「ありがとう」とママが言いました。「私は植物が大好きなの。ここはまるでジャングルみたいね」
- PG 7: The children went to play in Biff’s room. Anneena looked at the little house.
“Can we have a magic adventure?” she asked.
“We can if the key glows,” said Kipper. Just then the key did begin to glow.
子どもたちはビフの部屋に遊びに行きました。アニーナは小さな家を見つめました。
「私たち、魔法の冒険に行けるかしら？」とアニーナが言いました。
「マジックキーが光ればね」とキッパーが言いました。まさにその時、マジックキーが光り始めたのです。
- PG 8: The magic took them into a jungle. The jungle was full of plants.
“It’s wonderful,” said Biff.
“Look at that one; it’s ten times bigger than the one I gave Mum.”
魔法の力が子どもたちをジャングルの中へ連れて行きました。
ジャングルは植物でいっぱいでした。
「素晴らしいわ」とビフが言いました。
「あれを見て、私がママにあげたものの十倍も大きいわ」
- PG 9: They saw a monkey up a tree. It jumped up and down on the branch.
“That monkey looks cross,” said Kipper. “I don’t think it likes us.”
“It looks like you,” said Chip.
子どもたちは木の上に一匹の猿を見つけました。猿は枝の上でぴょんぴょん跳び跳ねています。
「あの猿、怒っているみたいだ」とキッパーが言いました。
「ぼくらの事が気に入らないんじゃないかな」
「君にそっくりだ」とチップが言いました。
- PG 10: The monkey was angry with the children. It shook the branch.
Then it began to throw things at them.
“We can’t stay here,” said Biff. “Come on.”

猿は子どもたちに腹を立てていました。猿は枝を揺すりました。
そして、子どもたちに物を投げ始めました。
「ここにはいられないわ」とビフが言いました。「行きましょう」

- PG 11: They ran through the jungle, but suddenly Chip stopped.
“Oh no!” he said, “Look at this.”
There was a big snake in the way.
“We can’t go this way,” said Chip. “Come on.”
子どもたちはジャングルの中を走りました。しかし突然チップが止まりました。
「大変だ！」とチップが言いました。「これを見て」
一匹の大きな蛇が行手をふさいでいました。
「こっちの道はだめだ」とチップが言いました。「行こう」
- PG 12: They came to a river. There were alligators asleep on the bank.
“Don’t wake them up,” said Kipper. “They might get angry.”
“They might like you for dinner,” said Biff.
子どもたちは川までやって来ました。川岸にワニが寝ていました。
「あいつらを起こすなよ」とキッパーが言いました。「怒らせてしまうかも」
「ごちそうにされちゃうかもね」とビフが言いました。
- PG 13: Suddenly they fell into a big net. It pulled them up in the air.
“Oh help!” called Anneena. “We’re in a trap.”
突然子どもたちは大きな網の中に落ちてしまいました。そして空中へ引
っぱり上げられました。
「わあ、助けて！」とアニーナが叫びました。「罠にかかったわ」
- PG 14: The children were hanging in the net. The net was a trap to catch animals.
“Help! Help!” called the children.
“Let us down!” called Kipper.
子どもたちは網にかかり宙づりになりました。それは動物を捕まえるため
の網でした。
「助けて！ 助けて！」と子どもたちが叫びました。
「ぼく達をおろして！」とキッパーが叫びました。
- PG 15: A man and a lady came out of the trees. They were explorers.
“Don’t worry,” said the lady, “we’ll soon get you down.”
男のひと女の人木が木の陰から出てきました。二人は探検家でした。
「心配しないで」と女の人言いました。「すぐに下ろしてあげるから」
- PG 16: “What are you doing in the jungle?” asked the man. “Are you lost?”
“Yes,” said Biff. “I think we are.”

“So are we,” said the lady, “but then we have been lost for years.”
「君たちはジャングルで何をしてるんだい？」と男の人が聞きました。
「道に迷ったのかな？」
「はい」とビフが言いました。「迷ったみたいです」
「私たちもよ」と女の人が言いました。「でも私たちはそれからもう長い間、
迷ったままなの」

- PG 17: She showed them a picture.
“We are looking for this place,” she said.
“It’s called the Lost City. Nobody lives there. It’s been lost for years and years.”
女の人子どもたちに絵を見せました。
「私たちはこの場所を捜しているのよ」と女の人が言いました。
「ここは『失われた都』と呼ばれているの。誰もそこには住んでいないわ。
何年もの間その都は消えたままなの」
- PG 18: The children liked the explorers.
They wanted to help them find the Lost City.
“Maybe we can find it today,” said Kipper.
“I don’t think so,” said the man. “We have been looking for years.”
子どもたちは、その探検家たちが好きになりました。
そして、『失われた都』を見つけるのを手伝いたいと思いました。
「ひょっとしたら、今日その町が見つかるかもしれないよ」とキッパーが
言いました。「そうは思わないな」と男の人が言いました。
「私たちは何年もの間、探し続けているんだから」
- PG 19: They came to a rope bridge.
“Maybe the Lost City is over there,” said Biff. “Let’s go and see.”
They began to cross the bridge.
“I hope it’s safe,” said Kipper.
一行は、ロープのつり橋までやって来ました。
「ひょっとしたら、『失われた都』は橋の向こうにあるのかもしれない」とビフ
が言いました。
「行ってみましょう」一行は橋を渡り始めました。
「安全だといいんだけど」とキッパーが言いました。
- PG 20: They found a boat on the bank of the river.
The boat was full of water.
“Oh good!” said the explorers. “We lost this boat years ago.”
一行は一隻のボートを川岸で見つけました。
ボートの中は水でいっぱいでした。「ああ、良かった！」と探検家たちが
言いました。

「昔、私たちがなくしてしまったボートなんだ」

- PG 21: They got in the boat and paddled up the river.
“Look at all the alligators!” said Chip. “I hope it’s not their dinner time.”
一行はボートに乗りこみ、こぎ進んで行きました。
「見て、ワニがあんなにたくさん！」とチップが言いました。
「あいつらの食事時じゃなければいいんだけど」
- PG 22: They came to a waterfall. The explorer could not stop the boat.
The paddle had broken.
“Look out!” he called. “We’re going to get wet.”
滝にやって来ました。探検家はボートを止めることができませんでした。
オールが壊れていたのです。
「気を付けて！」と探検家が叫びました。「ずぶぬれになるぞ」
- PG 23: The boat went through the waterfall.
“Oh help,” said Anneena. “I don’t like getting wet.”
“Think of the alligators,” said Chip. “It’s better than getting eaten!”
ボートは滝の中をくぐっていきました。
「助けて」とアニーナが言いました。「私、濡れたくない」
「ワニのことを考えてごらん」とチップが言いました。
「やつらに食べられるよりましたよ！」
- PG 24: Behind the waterfall there were some steps. The steps went up and up for a long way. Nobody could see how far they went.
“This may be the way to the Lost City,” said the lady. “Come on.”
滝の後ろに階段がありました。階段はとても長く、ずっと上まで続いていました。それがどこまで続くのか、誰にもわかりませんでした。
「これが『失われた都』へ続く道なのかもしれないわ」と女の人が言いました。
「行きましょう」
- PG 25: As they climbed the steps, some bats flew past them.
“If this is the way to the city, I can see how it got lost,” said Anneena.
“It’s such a long way up.”
階段を上がっていくと、こうもりたちがすぐそばを飛んで行きました。
「もしこれが都に続く道なら、どうしてなくなったのかがわかるわ」とアニーナが言いました。「とても遠く高いところにあるもの」
- PG 26: “It’s the Lost City!” shouted the explorers. “We have found it at last.”
The man threw his hat in the air and his wife jumped up and down.
“I knew we’d find it today,” said Kipper.

「これが『失われた都』だ！」探検家たちが叫びました。「やっと見つけた」男の人は帽子を放り投げ、奥さんは飛び跳ねました。
「今日見つかるって、ぼくにはわかっていたんだ」とキッパーが言いました。

PG 27: Nobody had been in the city for years. There were plants and trees everywhere.

Biff pulled a plant out of a wall.

“This is like the one I gave Mum,” she said.

もう何年も、誰もこの都に来た事はありませんでした。

そこら中に木や草がありました。

ビフはある植物を壁から取りました。

「これは私がママにあげたのにそっくりだわ」とビフが言いました。

PG 28: They went to a big building and they opened the doors.

“Oh look!” they all gasped. Everything inside the building was made of gold.

一行は大きな建物まで行きドアを開けました。

「わあ、見て！」誰もが息を呑みました。建物の内側は全て金で出来ていました。

PG 29: The floor was gold and the walls were gold.

There were some gold steps that went up to a gold throne.

“What a wonderful place!” said Anneena. “There’s gold everywhere.”

床は金、壁も金です。そこには、金の王座に登って行く金の階段がありました。

「何て素晴らしい所なの！」とアニーナが言いました。「そこら中に金があるわ」

PG 30: Kipper sat on the gold throne.

A monkey jumped down behind him.

“Look at me!” he said.

“Look at that monkey behind Kipper,” said Biff.

“Which one is the monkey?” asked Chip.

キッパーは金の王座に座りました。

一匹の猿がキッパーの背後に飛び降りてきました。

「ぼくを見て！」とキッパーが言いました。

「キッパーの後ろの猿を見て」とビフが言いました。

「どっちが猿だろう？」とチップがたずねました。

PG 31: Suddenly, the key began to glow.

“It’s time to go home,” said Chip.

“Goodbye,” said the explorers. “Thank you for helping us find the Lost City.”

“I wish we had a magic key,” said the man.

突然、マジックキーが光り始めました。

「家に帰る時間だ」とチップが言いました。

「さようなら」と探検家たちが言いました。「『失われた都』を見つけるのを手伝ってくれてありがとう」

「私たちにもマジックキーがあったらな」と男の人が言いました。

PG 32: The magic took the children home.

Biff still had the plant she found in the Lost City.

“I’ll put it in Mum’s jungle,” she said.

“I know where we can get a monkey too.”

魔法の力が子どもたちを家へつれ戻しました。

ビフは『失われた都』で見つけた植物を持っていました。

「私、これをママのジャングルに加えるわ」とビフが言いました。

「私、どこに猿がいるかも知ってるわ」

The Broken Roof 「壊れた屋根」

- PG 1: It was games time at school. The children were outside on the field.
Anneena ran up to Mrs May.
“Come and see something, Mrs May,” she said.
学校では、体育の時間でした。子どもたちは運動場に出ていました。
アニーナがメイ先生のところへ走ってきました。
「メイ先生、来て下さい。見て欲しい物があるんです」アニーナが言いました。
- PG 2: Someone had broken the fence down and dumped junk on the field.
Wilf was cross.
“We don’t want junk on our field,” he said.
“The field isn’t a dump,” said Mrs May.
誰かが柵を壊して、ガラクタを運動場に捨てていたのです。
ウィルフは腹が立ちました。
「運動場にごみなんか捨てて欲しくないよ」とウィルフが言いました。
「運動場はごみ捨て場ではないわ」とメイ先生が言いました。
- PG 3: Then Mrs May saw something in the junk.
“Do you see this?” she asked the children.
“It’s a mangle. It gets the water out of wet clothes.”
“How does it do that?” asked Anneena.
その時、メイ先生がガラクタの中に何かを見つけました。
「これ、わかる？」と先生が子どもたちに聞きました。
「これは手回し式脱水機よ。濡れた服の水をしぼり出すのに使うの」
「どうやって使うんですか？」とアニーナが聞きました。
- PG 4: Mrs May took the mangle to the classroom.
She showed the children how it worked. First she got a big sheet and made it wet.
Then Nadim turned to the handle and Biff helped Mrs May put the sheet through.
メイ先生は脱水機を教室に持って行きました。
先生は子どもたちに使い方を見せました。最初に大きなシートを出し、それを濡らしました。次にナディムがハンドルを回し、ビフはメイ先生がシートを通すのを手伝いました。
- PG 5: The water ran out of the sheet and went into a bucket.

“We don’t use mangles now to get clothes dry,” said Mrs May. “What do we use?”

シーツから水が流れだし、バケツに落ちました。

「今はもう、服を乾かすためにこの脱水機は使わないわ」とメイ先生が言いました。「何を使うかわかる？」

PG 6: Mrs May showed the children a picture of someone washing clothes a long time ago.

Mrs May asked the children if they had any old things at home.

Some of the children said they had.

メイ先生は子どもたちに、昔の人が服を洗っている絵を見せました。

メイ先生は子どもたちの家に何か古い物があるか聞きました。

子どもたちの何人かはあると言いました。

PG 7: When Biff and Chip got home from school they looked at the little house.

“The house looks very old,” said Chip, “and so do these little children.

Let’s take them to school.”

ビフとチップは家に帰ると、ミニチュアの家を見ました。

「この家はとても古そうだな」とチップが言いました。「この子どもたちも昔の人たちみたい。これを学校に持って行こう」

PG 8: Kipper didn’t want them to take the little house to school.

“What about the magic?” he asked Biff.

“The magic won’t work if we don’t take the key,” said Biff.

キッパーは、そのミニチュアの家を学校に持って行かれるのは嫌でした。

「魔法はどうなるの？」とキッパーがビフにたずねました。

「マジックキーを持っていかなければ、魔法は働かないわ」とビフが言いました。

PG 9: Some of the children took old things to school.

“What a lot of things,” said Mrs May.

“We can find out all about them and have a display.”

子どもたちの何人かが古い物を学校に持ってきました。

「何てたくさんあるんでしょう」とメイ先生が言いました。

「一つ一つ調べてから、展示しましょう」

PG 10: Mrs May liked the little house and so did all the children.

Biff and Chip didn’t say that the house was magic. That was a secret.

メイ先生はミニチュアの家が気に入りました。子どもたちもみな同じでした。

ビフとチップはそれが魔法の家だとは言いませんでした。秘密だったのです。

- PG 11: Wilf was being silly. He climbed on Mrs May's table and pushed some books over. The books fell on to the little house with a crash.
 "Oh no!" said Biff.
 ウィルフはふざけていました。ウィルフはメイ先生の机に乗り、本を何冊も押し倒しました。本が小さな家の上に落ち、ガチャンと音をたてました。「やだ、どうしよう！」とビフが言いました。
- PG 12: One of the books made a hole in the roof.
 Wilf was very upset when he saw that the roof was broken.
 "I'm sorry," he said. "Perhaps I can get my dad to mend it."
 本の一冊が当たって、屋根に穴が開いてしまいました。
 ウィルフは屋根が壊れたのを見て、おろおろしました。
 「ごめんね」とウィルフが言いました。
 「もしかしたら、ぼくのパパに直してもらえるかもしれない」
- PG 13: Biff and Chip took the house home. Kipper was cross when he saw it was broken.
 He had the magic key in his hand.
 "Will the magic still work?" he asked. Just then the key began to glow.
 ビフとチップはその家を持って帰りました。キッパーは家が壊れているのを見て怒りました。
 キッパーはマジックキーを手にしていました。
 「魔法はまだ働かな？」とキッパーがたずねました。ちょうどその時、マジックキーが光り始めました。
- PG 14: A new adventure began. The magic took the children back in time.
 It took them back to their house a long time ago.
 The house looked new but the roof was broken.
 新しい冒険の始まりです。魔法の力が子どもたちを過去へ連れて行きました。
 昔の時代の、子どもたちの家へ連れて行ったのです。
 家は新しく見えたのですが、屋根が壊れていました。
- PG 15: There were three children playing outside and two men were mending the roof.
 "Didn't our house look nice a long time ago?" said Biff.
 "But how did the roof get broken?"
 三人の子どもたちが外で遊んでいて、二人の男の人が屋根を直しています。
 「昔の私たちの家、素敵じゃない？」とビフが言いました。
 「でも、どうして屋根が壊れたのかしら？」

- PG 16: The children saw Biff, Chip and Kipper, and ran up to them.
 “Hello,” they said. “Who are you?”
 “I’m Biff,” said Biff. “This is Chip, and this is Kipper.”
 子どもたちがビフとチップとキッパーを見て走って来ました。
 「こんにちは」と三人が言いました。「君たちは誰？」
 「私はビフ」とビフが言いました。「こっちはチップで、こっちはキッパーよ」
- PG 17: “What funny names!” said the girl.
 “My name is Victoria, this is Edward, and this is Will.”
 “What funny clothes you have!” said Will.
 “Not as funny as yours!” said Kipper.
 「何て、おかしい名前！」と女の子が言いました。
 「私の名前はヴィクトリア、この子がエドワードで、こっちはウィルよ」
 「君たちは何ておかしい服を着てるんだい！」とウィルが言いました。
 「君たちほどじゃないよ！」とキッパーが言いました。
- PG 18: Kipper looked up at the men on the roof.
 “How did the roof get broken?” he asked.
 “We don’t know,” said Edward. “It was broken when we woke up.”
 “That’s funny,” said Kipper.
 キッパーは屋根の上の男の人たちを見上げました。
 「どうして屋根が壊れたの？」とキッパーがたずねました。
 「それがわからないんだ」とエドワードが言いました。「起きたら壊れてい
 たんだ」
 「それはおかしいな」とキッパーが言いました。
- PG 19: A lady came out and called to the children.
 “Go inside and wash your hands,” she said. “It’s time for tea.”
 “Is that your mother?” Biff asked.
 “No,” said Edward. “That’s our cook.”
 一人の女の子が出てきて子どもたちを呼びました。
 「中に入って手を洗いなさい」と女の子が言いました。「お茶の時間よ」
 「あの人、あなたのお母さん？」とビフが聞きました。
 「違うよ」とエドワードが言いました。「あの方は料理係さ」
- PG 20: The children went into the kitchen. The cook looked at Biff, Chip, and Kipper.
 “May they stay to tea?” asked Victoria.
 “They have funny clothes,” said Cook, “but yes.”
 子どもたちは台所に行きました。料理係はビフとチップとキッパーに気づ
 きました。

「三人もお茶に加わってもいい？」とヴィクトリアがたずねました。
「おかしな服を着ているのね」と料理係が言いました。「でも、まあ、いいでしょう」

- PG 21: Biff looked round the kitchen.
“This is not like our kitchen,” she said. Cook looked at Chip’s hands.
“Go and wash your hands,” she said. “You can’t have tea until you do.”
ビフは台所を見まわしました。
「ここは私たちの台所とは違うみたい」とビフが言いました。料理係がチップの手を見つめました。
「手を洗ってきなさい」と料理係が言いました。「手を洗うまで、お茶はお預けです」
- PG 22: After tea, Cook made the children wash their hands again.
Then she told Edward to take some tea to the workmen.
“Come and see our rooms,” said Edward.
お茶の後、料理係は子どもたちに再び手を洗わせました。
そして、料理係は職人さんたちにお茶を持って行くよう、エドワードに言いました。「ぼくたちの部屋を見においでよ」とエドワードが言いました。
- PG 23: The broken roof was in Edward’s room.
“Is it mended yet?” he asked.
“It won’t be long now,” said the man.
“Thanks for the tea.”
壊れた屋根はエドワードの部屋の屋根でした。
「もう直ったの？」とエドワードがたずねました。
「もうすぐだよ」と職人さんは言いました。
「お茶をありがとう」
- PG 24: The children went into Victoria’s room.
Victoria had a little room in her bedroom. It was the one Biff had.
“We keep toys in here,” said Victoria. “Come and look.”
子どもたちはヴィクトリアの部屋へ行きました。ヴィクトリアの寝室には、もうひとつの小さな部屋がありました。それはビフの部屋にあるのと同じ部屋でした。
「私たちはおもちゃをここにしまっておくの」とヴィクトリアが言いました。
「見てごらん」
- PG 25: Biff, Chip, and Kipper looked at the children’s toys. Chip loved the rocking horse.
“I wish we had a horse like this,” said Kipper.
“So do I,” said Biff.

ビフとチップとキッパーは子どもたちのおもちゃを見ました。
チップは揺れる馬のおもちゃが気に入りました。
「うちにもこんな馬があったらいいのに」とキッパーが言いました。
「私もそう思う」とビフが言いました。

- PG 26: Victoria took Biff, Chip, and Kipper into the little room.
“Come and see this,” she said.
“What is it?” asked Kipper.
ヴィクトリアはビフとチップとキッパーを小さな部屋へ連れて行きました。
「これを見て」とヴィクトリアが言いました。
「これは何？」とキッパーがたずねました。
- PG 27: Victoria showed them a little house.
She told them that her father was making it for them.
“It will look like this house,” she said.
“We know,” said Biff.
ヴィクトリアは三人に小さな家を見せました。
そして、お父さんが自分たちのために作ってくれている最中なのだと言いました。
「私たちの家そっくりになるのよ」とヴィクトリアが言いました。
「知ってるわ、私たち」とビフが言いました。
- PG 28: Edward looked at Chip’s watch and Chip looked at Edward’s boat.
“Do you want to swap?” asked Edward.
“Yes, please,” said Chip, “then I can take the boat to school to show Mrs May.”
エドワードはチップの腕時計を、チップはエドワードの船を見ました。
「とりかえっこする？」とエドワードが聞きました。
「うん、そうしよう」とチップが言いました。
「そうすれば学校に持って行って、メイ先生に船を見せられる」
- PG 29: Suddenly, the magic key began to glow.
“It’s time to go,” said Kipper, “but I don’t want to.”
“Will you come back?” asked Edward.
“We don’t know,” said Biff. “Maybe.”
その時、マジックキーが光り始めました。
「もう行く時間だ」とキッパーが言いました。「でもぼく行きたくないよ」
「また来る？」とエドワードがたずねました。
「さあね」とビフが言いました。「もしかしたらね」
- PG 30: The magic took the children home. They looked at the little house.
“The broken roof has been mended,” said Biff. “How did that happen?”

魔法の力が子どもたちを家に連れ戻しました。三人は小さな家に目をやりました。

「壊れた屋根が直っているわ」とビフが言いました。「どういうことかしら？」

PG 31: “I don’t know,” said Chip, “maybe Dad mended it.”

“I think the workmen in the adventure did it,” said Kipper. “We saw them.”

“I think it was magic,” said Biff.

「さあね」と、チップが言いました。「もしかしたらパパが直してくれたのかもね」「ぼくは冒険で出会った職人さんたちがやったんだと思うな」キッパーが言いました。「見たじゃないか」

「私は魔法だと思うわ」とビフが言いました。

PG 32: “I liked that adventure best of all,” said Biff. “I liked those children long ago. I’d like to go back and see them again.”

“Me, too,” said Chip, looking at the boat. “Maybe I could get my watch back!”

「私、今回の冒険が一番気に入ったわ」とビフが言いました。

「あの昔の子どもたち、好き。また戻って会いたいな」

「ぼくも」とチップが船を見ながら言いました。

「もしかしたら、ぼくの腕時計を返してもらえるかもしれないね！」

The Lost Key 「なくなった鍵」

- PG 1: Kipper wanted a magic adventure but the magic key would not glow. It had not glowed for a long time.
“Maybe it will glow if I keep it with me, he thought, so he put it in his pocket.
キッパーは冒険がしたいと思っていましたが、マジックキーは光りそうもありません。マジックキーはもうずいぶん長い間光っていませんでした。「もしかしたら、ぼくが肌身離さず持っていれば光るかもしれない」とキッパーは思いました。そこで、マジックキーをポケットに入れました。
- PG 2: Mum had to go shopping. She wanted Kipper to go with her.
“I want to get you some new trainers,” she said, “so come on.”
Kipper forgot he had the key in his pocket.
ママは買い物に行かなければなりませんでした。ママはキッパーにも一緒に来て欲しがっています。
「あなたに新しい運動靴を買いたいの」とママは言いました。
「だから一緒に来てちょうだい」
キッパーはポケットにマジックキーが入っていることを忘れていました。
- PG 3: On the way to the shops, Mum let Kipper stop and play.
He ran to the rocket and the key fell out of his pocket on to the grass.
“Look at me, Mum!” he called.
お店に行く途中で、ママはキッパーを遊ばせてあげました。
キッパーはロケットの方へ走って行きました。その時、マジックキーがポケットから草むらに落ちてしまいました。
「ママ、見て！」とキッパーは叫びました。
- PG 4: Kipper looked in his pockets but the key was not there.
“Oh no!” said Kipper. “Where is the key? I can’t have lost it, can I?”
But he had lost the key.
キッパーはポケットの中を見ましたが、マジックキーはありませんでした。「どうしよう！」とキッパーが言いました。「マジックキーはどこ？ ぼく、なくしてなんかいないよね？」
でも、キッパーはマジックキーをなくしてしまっていたのです。
- PG 5: Kipper wanted to go and look for the key, but Mum would not let him.
It had started to rain and Mum wanted to get home.
“Ask Biff and Chip to look for it,” she said.
キッパーはマジックキーを探しに行きたかったのですが、ママが許しませ

んでした。雨が降り出していたので、ママは家に帰りたかったのです。
「ピフとチップに捜してもらおうように頼みなさい」とママが言いました。

- PG 6: A man came to cut the grass. He cut it with a mower.
The mower ran over the magic key with a clang.
“What was that?” said the man.
おじさんが草刈をしに来ました。草刈機で草を刈りました。
草刈機がマジックキーに乗り上げ、がちゃんと大きな音を立てました。
「何事だ？」とおじさんは言いました。
- PG 7: The key had broken the mower.
“Grrrrr!” the man said, crossly. “Now I shall have to mend the mower.”
He was so cross that he threw the magic key in a bin.
マジックキーが草刈機を壊してしまいました。
「クーッ」と、おじさんが怒るように言いました。
「もう、草刈機を直さなくちゃならないな」
おじさんはひどく頭にきたので、マジックキーをごみ箱に捨ててしまいました。
- PG 8: Two boys came to play on the swings.
One of the boys looked in the bin and found the key.
“Look at this old bent key,” he said. “What shall we do with it?”
二人の少年がブランコに乗りに来ました。
少年の一人がごみ箱の中を覗きマジックキーを見つけました。
「この古い曲がった鍵を見てよ」と少年が言いました。「これ、どうしようか？」
- PG 9: The boys took the key with them. One of them had some string.
He tied it to the string and spun it round and round.
少年たちは鍵を持っていきました。一人がひもを持っていました。
その子は鍵にひもを結んで、くるくと回しました。
- PG 10: Suddenly the string broke and the key flew through the air.
It hit a greenhouse with a crash and broke the glass.
“Oh no!” said the boys.
すると突然ひもが切れ、鍵が空中を飛びました。
そして温室に当たってガチャんと音をたて、ガラスを割りました。
「しまった！」と男の子たちが言いました。
- PG 11: “Look at my greenhouse!” yelled the man.
“The glass is broken.”
The boys ran away as fast as they could.

“Just you come back here,” called the man.
「私の温室を見てみなさい！」とおじさんが叫びました。
「ガラスが割れたじゃないか」
男の子たちは力いっぱい走って逃げました。
「おい、戻って来い」とおじさんは叫びました。

- PG 12: Kipper had to tell Biff and Chip that he had lost the magic key.
“I think I lost it by the rocket,” he said, “but Mum wouldn’t let me look for it.”
“Come on,” said Chip. “We must find it.”
キッパーは、ビフとチップにマジックキーをなくしたことを言わなければなりませんでした。
「ぼく、ロケットの近くでなくしたと思う」とキッパーが言いました。「でも、ママが捜させてくれなかったんだ」
「行こう」とチップが言いました。「鍵を見つけなきゃ」
- PG 13: Wilf and Wilma helped them look for the lost key.
Biff asked the man if he had seen it.
“Yes,” said the man. “I threw it in that bin, but two boys took it out.”
ウィルフとウィルマも、三人がなくなった鍵を捜すのを手伝いました。
ビフはおじさんに、鍵を見なかったか聞きました。
「ああ」とおじさんが言いました。
「ごみ箱に捨てたが、二人の男の子が取って行ったよ」
- PG 14: The children saw the two boys. They asked them if they had found the key.
“Yes,” said the boys, “but we lost it again. We broke a man’s greenhouse with it.”
子どもたちは二人の少年に会いました。そして、鍵を見つけたか聞きました。
「見つけたよ」と少年たちは言いました。「でも、またなくしてしまったんだ。ぼくら、その鍵でおじさんの温室を壊しちゃったんだ」
- PG 15: They saw the man with the greenhouse.
“We are sorry about the broken glass,” said Chip, “but could we have the key?”
“Sorry,” said the man. “I sold the key to the junk shop to help pay for the glass.”
子どもたちは温室のおじさんに会いました。
「壊れたガラスの事はお気の毒でした」とチップが言いました。
「でも、鍵は返してもらえますか？」
「すまないが」とおじさんが言いました。「鍵はガラス代の足しにするために、ガラクタ屋へ売ってしまったんだよ」

- PG 16: The children went to the junk shop.
They told the lady about the key and asked her if she had it.
“Sorry,” said the lady. “I have just sold it.”
子どもたちは、ガラクタ屋へ行きました。
そしておばさんに鍵の話をして、おばさんが持っているか聞きました。
「悪いわね」とおばさんが言いました。「たった今、売れちゃったのよ」
- PG 17: The lady told them who had it.
“A man came in,” she said. “He wanted some old keys.”
She told them that the man had a shop down the street.
おばさんは子どもたちに、誰が鍵を持っているかを教えてくださいました。
「男の人が来たの」とおばさんが言いました。「その人は古い鍵を欲しがっていたわ」おばさんは、通りを進んで行った所にその男の人お店を持っていることを教えてくださいました。
- PG 18: The children went to the man’s shop.
In the window there were pictures and paintings.
“Why do you think the man wants old keys?” asked Wilf.
子どもたちはその男の人の店へ行きました。
ウィンドーの中には写真や絵が飾られていました。
「どうしてこの男の人は古い鍵が欲しいんだと思う？」とウィルフが聞きました。
- PG 19: Wilma looked inside the shop. It was closed and she couldn’t see the man.
“We must get our pocket money,” said Biff.
“We may have to buy the key back.”
“Let’s go home, then,” said Chip.
ウィルマが店の中を覗きました。店は閉まっていて、男の人は見えませんでした。
「お小遣いを取ってこなくちゃ」とビフが言いました。
「鍵を買い戻す事になるかもしれない」
「じゃ、家に帰ろう」とチップが言いました。
- PG 20: Mum went to the shop with the children. She told the man about the key and how Kipper had lost it. She asked if they could have the key back.
“Yes,” said the man. “If you can find it.”
ママが子どもたちと一緒に店へやって来ました。ママは男の人に鍵の事と、キッパーがそれをなくしたいきさつを話しました。ママは鍵を返してもらえるかどうか聞きました。
「いいよ」とおじさんは言いました。「その鍵が見つけれたらね」

- PG 21: The man had painted some pictures and had put lots of keys in them.
All the keys had been painted.
The children looked at the pictures but they couldn't see the magic key.
おじさんは絵を描いていて、その中にたくさんの鍵を入れていました。
鍵は全部塗られていました。
子どもたちは絵を見ましたが、マジックキーは見つかりませんでした。
- PG 22: They looked at all the pictures.
"All the keys look the same," said Biff.
Suddenly Kipper saw a little picture. It had one key in it.
"Here it is," he said. "This is our key."
子どもたちは全部の絵を見ました。
「鍵は全部同じに見えるわ」とビフが言いました。
突然、キッパーが小さな絵を見ました。その中に、鍵が一つ入っていました。
「ここにあったよ」とキッパーが言いました。「これがぼくたちの鍵だ」
- PG 23: The man told them that they would have to buy the picture.
Biff and Chip gave Mum their pocket money, and Mum paid the man.
"It's a lot to pay for an old key," she said.
男の人は、みんなにその絵を買ってもらわなければならないと言いました。
た。
ビフとチップはママにお小遣いを渡し、ママが男の人に代金を払いました。
た。
「古い鍵に払うにしては大金だわ」とママが言いました。
- PG 24: The children pulled the key from the picture and rubbed off the paint.
Then they looked at it.
"The key has not glowed for a long time," said Biff.
"Perhaps it has lost its magic."
子どもたちは鍵を絵から引き離して、絵の具をふきとりました。
そして鍵を見ました。
「もうずいぶんの間、鍵は光っていないわ」とビフが言いました。
「もしかしたら、魔法の力をなくしてしまったのかもしれない」
- PG 25: "It's been out in the rain," said Wilf, "and it's been bent by a mower."
"It's been through a window," said Chip, "and it's been stuck on a painting."
"It's had a bad time," said Wilma.
「外で雨に打たれて」とウィルフが言いました。「草刈機で曲げられちゃった」
「窓を突き抜けたし」とチップが言いました。「絵に貼り付けられてた」

「この鍵、大変な目にあったよね」とウィルマが言いました。

- PG 26: The children wanted the key to glow.
Wilma picked it up.
“Do you think it will ever glow again?” she said.
“Do you think the magic will still work?”
“I don’t know,” said Biff. “I hope so.”
子どもたちは、鍵が光ることを望んでいました。
ウィルマが鍵を持上げました。
「また光ると思う？」とウィルマが言いました。
「まだ魔法が働くかしら？」
「さあね」とビフが言いました。「そうだといいいんだけど」
- PG 27: But the key didn’t glow and the magic wouldn’t work.
Kipper told the key about the adventures he would like to have.
But still the magic wouldn’t work.
けれども鍵は光らず、魔法は働きそうもありませんでした。
キッパーは鍵に、自分がしてみたい冒険の話をしました。
けれども魔法は働きませんでした。
- PG 28: The next day, Wilf and Wilma came to the house with Nadim and Anneena.
The children were sorry about the key.
It still wouldn’t glow and they were all very sad.
次の日、ウィルフとウィルマがナディムとアニーナと一緒に家にやってきました。子どもたちは鍵のことを残念がりました。
鍵はあいかわらず光りそうもなく、みんなはとても悲しくなりました。
- PG 29: “How can we make the magic work again?” asked Wilma.
Anneena thought of a good idea.
“Let’s remind it of the magic adventures,” she said.
“Maybe that will make it work.”
「どうやったら、また魔法の力を働かせることができるのかしら？」ウィルマが聞きました。
アニーナに名案が浮かびました。
「魔法の冒険のことを、鍵に思い出させるのよ」とアニーナは言いました。
「もしかしたら、それで魔法の力を取り戻させられるかもしれないわ」
- PG 30: But the key still didn’t glow. At last the children gave up.
Mum told Biff and Chip it was time for their friends to go home.
“Cheer up,” said Mum.
けれども鍵は光りませんでした。とうとう子どもたちはあきらめました。

ママはビフとチップに、お友だちは帰る時間だと告げました。
「元気を出して」とママは声をかけました。

PG 31: Kipper was sorry about the key.
“It’s all my fault,” he said and he began to cry.
“Don’t cry, Kipper,” said Chip. “Maybe the magic has just run out.”
キッパーは鍵の事を申し訳なく思っていました。
「全部ぼくのせいだ」キッパーは言いました。そして、泣き始めました。
「泣かないで、キッパー」とチップが言いました。「もしかしたら、魔法は全部使い切ってしまっただけなのかもしれないよ」

PG 32: Biff and Chip let Kipper take the key to bed. Kipper looked at it for a long time.
At last he fell asleep. Suddenly, the magic key began to glow.
ビフとチップはキッパーに、鍵をベッドに持って行かせてあげました。
キッパーは長い間、鍵を見つめていました。ようやく、キッパーは眠りにつきました。すると、突然、マジックキーが光り始めたのです。

The Willow Pattern Plot 「柳模様計画」

- PG 1: Biff and Chip were at a car boot sale. They saw Nadim.
“Nadim! Over here!” called Biff.
Nadim ran to see them. He had bought something at the sale.
ビフとチップはガレージセールに来ていました。彼らはナディムに会いました。
「ナディム！ こっちだよ！」ビフが呼びました。
ナディムは彼らに会いに走ってきました。彼はすでにそのセールで何かを買っていました。
- PG 2: It was a blue and white plate. He showed it to Biff and Chip.
“It’s a present for my mum,” said Nadim. “It’s a willow pattern plate. My mum collects them.”
それは青と白のお皿でした。彼はそれをビフとチップに見せました。
「それは僕のママへのプレゼントなんだ」とナディムは言いました。「それは柳模様のお皿なんだ。僕のママは柳模様のお皿を集めているんだ」
- PG 3: “Why is it called a willow pattern plate?” asked Chip.
“I don’t know,” said Nadim, “but I think the pattern tells a story.”
“I wonder what the story is,” said Biff.
「どうしてそれは柳模様のお皿とよばれるの？」とチップが尋ねました。
「わからない。でも僕はその模様はある物語を伝えていると思うんだ」
「どんな物語？」とビフは言いました。
- PG 4: Mum and Dad looked at Nadim’s plate.
“It’s a present for my mum,” said Nadim.
Biff asked if Nadim could come and play. So Nadim went to play with Biff and Chip.
ママとパパはナディムのお皿を見ました。
「それは僕のママへのプレゼントなんです」ナディムは言いました。
ビフはナディムに遊びに来られるか尋ねました。そこでナディムはビフとチップの家に遊びに行きました。
- PG 5: They went up to Biff’s bedroom.
“What shall we play?” asked Nadim.
“I don’t know,” said Biff. Suddenly, the key began to glow.
彼らはビフの寝室に行きました。

「何をして遊ぼうか？」とナディムが尋ねました。
「わからない」とビフが言いました。突然、鍵が光り始めました。

- PG 6: The magic took the children into a new adventure.
“What’s happening?” called Nadim.
“Help!” said Biff. “Everything is going blue!”
魔法は子どもたちを新しい冒険へ連れて行きました。
「何が起きているの？」ナディムが大声で聞きました。
「助けて！」とビフが言いました。「何もかもが青くなっていくわ！」
- PG 7: “What a strange place!” said Chip. “What strange trees!”
“Everything looks blue and white,” said Nadim. “We’re in the land of the willow pattern.”
「何て奇妙な場所だろう！」とチップは言いました。「何て奇妙な木々だろう！」
「すべてのものが青と白に見える。僕たちは柳模様の国にいるんだ」ナディムが言いました。
- PG 8: They were in a big garden. It had a high wall all round it and blue trees grew everywhere.
“I can see water,” said Biff. “Is the garden next to the sea?”
彼らは大きな庭の中にいました。周りじゅうに高い塀があり、青い木々がいたるところに生えていました。
「僕には水が見える」ビフが言いました。「このお庭は、海の隣にあるのかしら？」
- PG 9: “No, it’s next to a lake,” said Nadim. “There’s a bridge,” said Biff. “It’s like the one on the plate.”
“I can see a little house down by the water,” said Chip.
「いや、湖の隣さ」とナディムは言いました。「橋があるわ」とビフが言いました。「まるでお皿にあった橋みたいだわ」とチップが言いました。
「水辺に小さな家が見える」とチップが言いました。
- PG 10: Down by the lake they saw a girl. She was all alone.
“She looks unhappy,” said Biff. “Why is she all alone and why is she crying?”
下の湖のそばに一人の少女が見えました。彼女は一人きりでした。
「彼女は不幸せそうだわ」とビフは言いました。「どうして彼女は一人ぼっちで、どうして泣いているのかしら？」
- PG 11: The girl was called Kim Shee. She lived in the little house by the lake. She had a cruel father. He would not let her go out of the garden.

その少女はキム・シーと呼ばれていました。彼女は湖のそばの小さな家に住んでいました。彼女には残酷な父親がいました。彼は彼女が庭から出ることを許そうとはしませんでした。

- PG 12: Kim loved a boy called Chang. She wanted to marry him. But Chang was too poor. Kim's father wanted her to marry a rich man, but Kim loved Chang.
キムはチャンという少年を愛していました。彼女は彼と結婚したいと思っていました。しかしチャンはあまりにも貧乏でした。キムの父親は彼女をお金持ちと結婚させたいと思っていました。でも、キムはチャンを愛していました。
- PG 13: Kim Shee heard Chang calling.
"Kim Shee," he called. "Are you alone?"
"Chang!" said Kim. "How did you get here?"
"I swam across the lake," said Chang. "Nobody saw me."
キム・シーはチャンが呼んでいるのが聞こえた。
「キム・シー」とチャンが呼びました。「一人ですか？」
「チャン！」とキムは言いました。「どうやってここへ来たの？」
「湖を泳いで渡ったんです」とチャンは言いました。「誰も私に気づきませんでした」。
- PG 14: "Oh!" said Kim. "You are cold and wet."
"It does not matter," said Chang. But Kim Shee was afraid.
"You must go away," she said. "My father must not see you here."
「まあ！あなたは冷えて濡れているわ」とキムは言いました。「そんなことかまいません」とチャンは言いました。しかしキム・シーはびくびくしていました。「あなたは行かないとだめ」と彼女は言いました。「私の父がここであなたを見つけるといけないから」。
- PG 15: "This garden is like a prison," said Chang. "Your father never lets you go out."
"But what can we do?" asked Kim.
"We must run away," said Chang. "Then I can marry you."
「この庭は監獄のようですね」とチャンは言いました。「あなたのお父さんはけっしてあなたを出そうとしない」
「でも、私たちどうすればいいの？」とキムは尋ねました。
「僕たちは逃げるしかありません」とチャンは言いました。「そうすれば、僕はあなたと結婚できます」。
- PG 16: "But how can I leave the garden?" asked Kim. "There are guards everywhere."

“Don’t worry,” said Chang. “I will think of something.”
「でも、どうやって私は庭から出られるのでしょうか？」とキムは尋ねました。「あらゆるところに警護がいるのです」
「心配しなくてもいい」とチャンは言いました。「何か考えます」。

- PG 17: Kim heard the sound of a twig snapping.
“Someone is watching us!” she gasped. Chang jumped to his feet.
He held up a stick.
“Who is there?” he called.
キムは小枝の折れる音を聞きました。
「誰かが私たちを監視しているわ！」彼女は息をのみました。チャンはさっと立ち上がりました。そして、棒を振り上げました。
そこにいるのは誰だ？」チャンは大声で言いました。
- PG 18: Then they saw Biff, Chip and Nadim.
“Don’t be afraid,” said Biff. “We are friends.”
“We have never seen children like you before,” gasped Chang. “How did you get into this garden?”
その時、彼らはビフとチップとナディムを見つけました。
「怖がらないで。私たちは友達です」とビフは言いました。
「あなたたちのような子どもは今まで見たことがない」とチャンが驚きながら言いました。「どうやってこの庭に入ってきたの？」
- PG 19: “We didn’t mean to listen,” said Chip, “but we heard what you were saying.”
“We know you want to run away,” said Biff.
“But how can we?” asked Kim. “There are guards all round the garden.”
「僕たち、話を聞くつもりはなかったんです」とチップは言いました。「でもあなたたちが言っていることが聞こえてしまいました」。
「あなたたちが逃げ出したいのを知っています」とビフが言いました。
「でも、どうやって？」とキムが尋ねました。「庭じゅうに警護がいます」。
- PG 20: Nadim had a good idea. He told them what it was.
“It’s a brilliant idea!” said Chip.
“I’m sure it will work,” said Biff.
“But what if we are caught?” asked Chang.
ナディムがよい考えを思いつきました。ナディムはそれを話しました。
「それはすばらしい考えだ！」とチップが言いました。
「きょうまくいくと思うわ」とビフが言いました。
「でも、もし捕まったらどうしよう？」とチャンが尋ねました。
- PG 21: “Do you have a better idea?” asked Biff.

“No,” said Chang. “It is our only chance.”

“First, you must hide,” said Nadim.

“Then, be ready to run over the bridge,” said Chip.

「あなたにはもっとよい考えがありますか？」とビフは尋ねました。

「いいえ」とチャンは言いました。「それしかチャンスはありません」

「まず、あなた方は隠れなければいけません」とナディムが言いました。

「それから、その橋を走って渡る準備をして下さい」とチップが言いました。

PG 22: “Now we must get ready,” said Nadim.

Kim had a long sash round her waist.

“Give me your sash, Kim,” said Biff.

Kim gave Biff her sash. Biff tied Kim’s sash to the bridge.

「さあ僕たちは準備しなければ」とナディムは言いました。

キムは腰に長い腰帯をしていました。

「あなたの腰帯を下さい、キム」とビフは言いました。

キムは彼女の腰帯をビフに渡しました。ビフはキムの腰帯を橋に結びました。

PG 23: There were lemon trees in the garden.

Nadim and Chip climbed into one. They picked as many Lemons as they could. Then they waited.

庭にはレモンの木が何本もありました。

ナディムとチップは一本の木に登りました。彼らは出来るだけ多くのレモンをもぎ取りました。それから彼らは待ちました。

PG 24: Kim and Chang hid by the bridge.

Biff held on to the end of the sash.

“I hope Nadim’s idea works,” she thought. Nadim called from the tree.

“Willow Pattern Plot – begin!” he said.

キムとチャンは橋のそばに隠れていました。

ビフは腰帯の片方の端を握りしめていました。

「ナディムの考えがうまくいきますように」と彼女は思いました。ナディムが木から呼びかけ。

「柳模様の計画、開始！」と彼は言いました。

PG 25: Chip and Nadim began to shout at the guards.

“Come and get us!” they yelled.

“We’re over here.”

The guards ran into the garden. They ran towards Kim Shee’s little house.

チップとナディムは警護に向かって叫び始めました。

「僕たちを捕まえに来い！」と彼らは大声をあげました。

「僕たちはここにいるぞ」

警護は庭の中に駆け込んできました。彼らはキム・シーの小さな家のほうに向かって走りました。

- PG 26: Now that the guards were in the garden, Kim Shee and Chang could escape. Someone else ran into the garden.
“My father is coming!” gasped Kim Shee.
警護たちが庭に集まったので、キム・シーとチャンは逃げ出すことができました。他の誰かが庭に駆け込んできました。
「父がやってきます！」キム・シーはハッとしましたと言いました。
- PG 27: Kim and Chang began to run, but the guards saw them.
“Stop them!” shouted Kim Shee’s father.
Nadim and Chip threw the lemons at the guards.
キムとチャンは走り始めましたが、警護が彼らを見つけてしまいました。
「彼らを止めろ！」とキム・シーの父親が叫びました。
ナディムとチップは、警護に向かってレモンを投げました。
- PG 28: Chang and Kim Shee ran over the bridge. The guards chased after them.
Biff got ready.
“I hope Kim’s sash is strong!” she said.
The guards ran onto the bridge.
チャンとキム・シーは橋を駆け抜けました。警護は彼らを追いかけてきました。ビフの準備はできていました。
「キムの腰帯が丈夫でありますように」と彼女は言いました。
警護が橋の上に駆け上がってきました。
- PG 29: Biff pulled the sash tight. The guards tripped over it.
They fell over with a crash.
“You fools!” shouted Kim Shee’s father.
ビフは腰帯をひっぱりました。警護はそれにつまずきました。
警護はドシンと音をたてて倒れこみました。
「まぬけめ！」とキム・シーの父親は叫びました。
- PG 30: Chip and Nadim climbed down from the lemon tree. They ran across to find Biff. Kim Shee’s father saw them.
“Catch those children,” he yelled.
チップとナディムはレモンの木から下りました。彼らはビフを見つけるために庭を横切って走りました。キムシーの父親が彼らに気がつきました。
「あの子どもたちを捕まえろ！」彼は大声を出しました。

- PG 31: “Well done, Biff!” said Chip. “Kim and Chang have got away!”
“I hope we get away, too,” said Biff. The magic key was glowing.
“Hooray! It’s time to go!” she said.
「良くやったね、ビフ」とチップが言いました。「キムとチャンは逃げることができたよ！」
「私たちも逃げられますように」とビフは言いました。マジック・キーが光っていました。
「よかった！行く時間よ！」彼女は言いました。
- PG 32: “What an adventure!” said Chip.
Nadim picked up his plate and looked at it.
“I wonder what happened in the real willow pattern story,” he said.
「すごい冒険だったね！」とチップが言いました。
ナディムはお皿を取り上げてじっと眺めました。
「本当の柳模様の物語では、何が起きたのだろう」とナディムは言いました。

Submarine Adventure 「潜水艦の冒険」

- PG 1: Wilf and Wilma had come to play at Biff and Chip's house. It was Wilf's birthday.
"Happy birthday, Wilf," said Biff and Chip.
They gave him a big card.
ウィルフとウィルマはビフとチップの家に遊びに来ていました。ウィルフの誕生日でした。
「お誕生日おめでとう、ウィルフ」ビフとチップは言いました。
彼らは彼に大きなカードを贈りました。
- PG 2: Wilf had a large box.
"This is my birthday present," he said.
Everyone looked inside the box.
"What is it?" asked Chip.
"It looks like a submarine," said Biff.
ウィルフは大きな箱を持っていました。「これは僕の誕生日プレゼントなんだ」とウィルフは言いました。みんなはその箱の内側を覗き込みました。「それは何？」チップが尋ねました。「潜水艦みたいだね」とビフは言いました。
- PG 3: "It's a kind of submarine," said Wilf. "It explores the sea bed."
"That's right," said Wilma. "It goes to the bottom of the sea."
"What a brilliant present!" said Biff.
「潜水艦の一種なんだ」とウィルフが言いました。「海底を探検するんだよ」
「その通り」ウィルマが言いました。「それは海底へ行くのよ」
「なんてすてきなプレゼントでしょう！」とビフは言いました。
- PG 4: The submarine looked like a car. It had big windows and it had headlights.
Wilf put the headlights on.
"It's brilliant," said Chip.
その潜水艦は車のように見えました。大きい窓とヘッドライトもありました。ウィルフはヘッドライトをつけました。「明るいね」とチップは言いました。
- PG 5: Biff looked at the magic key. Suddenly it began to glow. It was time for a new adventure.
"I wonder where the key will take us," said Wilf.

ビフがマジック・キーを見ました。突然それは光始めました。新しい冒険に出かける時でした。

「鍵は私たちをどこへ連れて行くのかな」ウィルフは言いました。

PG 6: The magic took the children to the sea, where there were lots of boats. Wilma pointed to a yellow submarine.

“Look at that one,” she said. “It looks just like Wilf’s submarine!”

魔法は子どもたちを海に連れて行きました。そして、そこにはたくさんの船がありました。

ウィルマは黄色の潜水艦を指差しました。「あの潜水艦を見て」とウィルマは言いました。「ウィルフの潜水艦そっくりだわ」

PG 7: The children went to look at the submarine.

“I wish we could look inside,” said Chip.

Just then a hatch began to open and a man looked out.

子どもたちはその潜水艦を見に行きました。

「中が見られたらなあ」とチップが言いました。

ちょうどその時、ハッチが開き始め一人の男の人が外を見ました。

PG 8: The man peered at them.

“Hello!” he said. “I’m Professor Tangle.”

“How do you do,” said Wilf.

“My new crew?” said Professor Tangle. “You look a bit young.”

その男の人は彼らをじっと見ました。

「こんにちは！わしはタングル教授じゃ」

「はじめまして」とウィルフが言いました。

「わしの新しい乗組員じゃね？」とタングル教授は言いました。「少し若いようじゃが」

PG 9: “We’re not your new crew,” shouted Wilf. “How do you do!”

Professor Tangle didn’t hear properly. He got things muddled up.

“You know what to do?” he said.

「僕たちはあなたの新しい乗組員ではありませんよ」とウィルフは大きな声で言いました。「はじめまして」

タングル教授は、きちんと聞き取れませんでした。彼は物事をとりちがえてしまいました。

「君たちは何をすべきかわかっているね？」と彼は言いました。

PG 10: “That’s good! Get on board,” went on the Professor. “And tell me your names.”

“I’m Biff,” said Biff, “and this is Wilma. This is Wilf, and this is Chip.”

「それならけっこう！乗船しなさい」教授は続けて言いました。

「それから、君たちの名前を教えてください」
「私はビフです」とビフは言いました。「そしてこちらがウィルマ、こちらが
ウィルフ、そして、こちらがチップです」。

- PG 11: “No, it’s not a ship,” said the Professor. “It’s a diving machine.”
“We know that,” said Wilf.
“We’ve never been in one,” said Wilma, “and we’re not your new crew!”
「いや、それは船ではない*」と教授は言いました。「それは潜水用の機
械じゃ」
「わかってます」とウィルフが言いました。
「私たちは潜水艦には一度も乗ったことがありません」とウィルマが言い
ました。「それに、私たちはあなたの新しい乗組員でもないのよ！」
(*編集部注: Chip と ship をとりちがえている)
- PG 12: “You flew?” said Professor Tangle. “I didn’t see an aeroplane. Now shall
we go?”
Everyone smiled, and they all climbed into the submarine.
「君は飛んだのかい?*」とタングル教授は言いました。「飛行機は見な
かったがな。さて出かけようか」みんなは微笑んでいました。そして彼ら
はみんな潜水艦に上って、中に入りました。
(*編集部注: 「乗組員」=crew と「飛んだ」=flew, fly の過去形をとりちが
えている)
- PG 13: Professor Tangle shut the hatch.
“There’s not much room,” said Wilma.
“No,” said Biff. “I hope it doesn’t leak.”
“Of course you can speak,” said the Professor.
タングル教授はハッチを閉めました。「あまり場所がないわね」とウィル
マが言いました。「ないね」とビフが言いました。「水漏れしませんように」
「もちろん君たちは話をしてよしい*」と教授は言いました。
(*編集部注: 「漏れる」=leak と「話す」=speak をとりちがえている)
- PG 14: Professor Tangle started the engines.
“It’s time to dive,” he said.
The submarine went under the water.
“Glub! Glub! Glub” it went.
Everyone looked out of the window.
タングル教授はエンジンをスタートさせました。「潜る時間じゃ」と教授は
言いました。潜水艦は水中へ進みました。「ゴボ！ゴボ！ゴボ！」と音を
させながら進みました。みんなは窓から外を見ました。
- PG 15: They could see fish everywhere.

“It’s wonderful,” said Chip. “It’s amazing to be under the sea.”
“You can’t see?” said Professor Tangle. “Look out of the window, then.”
いたるところに魚が見えました。「すばらしい。海の中って驚くほど素敵なんだね」とチップが言いました。
「見えないって？* それでは窓から見なさい」とタングル教授は言いました。
(*編集部注: under the sea と can’t see をとりちがえている)

PG 16: “Come on, crew!” said Professor Tangle. “Time to do some work. Push that button, Biff. Press that handle, Wilf. Pull that lever, Chip.”
「さあ、乗組員諸君！」とタングル教授は言いました。「仕事をする時間じゃよ。そのボタンを押して、ビフ。そのハンドルを握って、ウィルフ。そのレバーを引いて、チップ」

PG 17: “We’re not the crew!” yelled Biff. “Things might go wrong.”
“Sing a song?” said Professor Tangle. “There’s no time for that. There’s far too much to do.”
「私たちは乗組員ではありません！」とビフが大きな声で言いました。
「間違いを起こしちゃうかもしれませんよ」
「歌を歌うだって？*」とタングル教授は言いました。
「そんな時間はない。しなければならぬ事がうんとたくさんあるのじゃよ」
(*編集部注: 「いろいろなこと」=thing と「歌う」=sing、「間違った」=wrong と「歌」=song をとりちがえている)

PG 18: The submarine began to dive. It went deeper and deeper.
“Glub! Glub! Glub!” it went.
“Where are we heading?” shouted Chip. “Will we dive deep?”
潜水艦は潜り始めました。ますます深く進んでいました。
「ゴボ！ゴボ！ゴボ！」と音をさせながら進みました。
「僕たちはどこへ向かっているのですか？」とチップは大きな声で言いました。「僕たちは深く潜るのですか？」

PG 19: “No, you can’t go to sleep,” said Professor Tangle. “You’re the crew! You have to stay awake! We are going to dive deep.”
“This thing scares me,” said Wilma.
「いや、君たちは眠ってはだめじゃ*」とタングル教授は言いました。
「君たちは乗組員じゃ！目を覚ましていなければならないのじゃ。我々は深く潜ることになっている」私は深く潜るなんて怖いわ」とウィルマは言いました。
(*編集部注: 「深い」=deep と「眠る」=sleep をとりちがえている)

- PG 20: The submarine went deeper and deeper.
 “Glub! Glub! Glub!” it went.
 Everyone looked out of the window.
 “I can see a shark!” said Wilma.
 “It *is* getting dark,” said the Professor.
 潜水艦はますます深く潜って行った。
 「ゴボ！ゴボ！ゴボ！」と音をさせながら進みました。
 みんな窓から外を見ました。
 「サメが見える」とウィルマが言いました。
 「だんだん暗くなっているようじゃ*」と教授は言いました。
 (*編集部注:「サメ」=sharkと「暗い」=dark をとりちがえている)
- PG 21: The submarine went even deeper. Professor Tangle was excited. It began to get dark.
 “It’s getting very dark,” said Biff. “Put the lights on, Professor.”
 潜水艦はさらに深く潜って行きました。タングル教授はワクワクしていました。
 辺りが暗くなり始めました。
 「とても暗くなってきています」とビフは言いました。「明かりをつけて下さい、教授」。
- PG 22: The Professor pushed the light switch.
 “Bother! The lights don’t work,” he said.
 Biff looked out of the window.
 “Oh no! Help! Professor Tangle! I can see huge rocks,” she called.
 教授は明かりのスイッチを入れました。
 「やれやれ！明かりがつかない」と教授は言いました。
 ビフは窓の外を見ました。
 「大変！助けて！タングル教授！ 巨大な岩があります！」ビフは叫びました。
- PG 23: “No, I don’t need clean socks,” said the Professor. “Now, where’s that fuse?” He began to look for his tool box.
 “Look out!” yelled Chip. “We’re going to crash!”
 「いや、私は清潔な靴下は必要ではない*」と教授は言いました。「さて、あのヒューズはどこにあるかな？」教授は工具箱を探し始めました。
 「気をつけて！衝突してしまいますよ！」と大声でチップが叫びました。
 (*編集部注:「巨大な岩が見える」=see huge rocks と「清潔なソックスが必要」=need clean socks をとりちがえている)
- PG 24: Professor Tangle pushed a button and he pulled a lever. The submarine didn’t crash. It just missed the rocks.

“Phew! That was close,” said Wilma.

タングル教授はボタンを押し、そしてレバーを引きました。潜水艦は衝突しませんでした。それはちょうど岩を回避しました。

「やれやれ！危機一髪だったわ」とウィルマは言いました。

- PG 25: There was a cave ahead of them. The submarine was heading for it.
“Slow down, Professor,” called Wilf. “We are heading for a cave in the rocks.”
彼らの前方には洞穴がありました。潜水艦はその方向に船首を向けていました。
「スピードを落としてください、教授」とウィルフが声をかけました。「僕たちは岩の中の洞穴に向かって前進しています」
- PG 26: “Yes, it was in the box,” said the Professor.
He held up the fuse.
“Professor, slow down!” yelled Wilf. “We’re going into a cave.”
「そうじゃ、その箱の中にあった*」と教授は言いました。
彼はヒューズを持ち上げた。
「教授、スピードを落として下さい」とウィルフは叫びました。「僕たちは洞穴の中に入りかけています」
(*編集部注:「岩」=rocks と「箱」=box をとりちがえている)
- PG 27: “Well, why didn’t you say so?” asked Professor Tangle. “We’d better slow down.”
He pulled a lever and the submarine slowed down just in time.
「そうじゃな、なぜ君は言わなかったんじゃ？」タングル教授は尋ねました。「我々はスピードを落としたほうがよろしい」
彼はレバーを引くと、潜水艦はスピードを落とすのにぎりぎり間に合いました。
- PG 28: The submarine went into the cave. Professor Tangle put the new fuse in. All the lights came on. The cave shone and sparkled. There were diamonds all over the walls.
潜水艦は洞穴の中に入って行きました。タングル教授は新しいヒューズを入れました。
すべての明かりがつかしました。洞穴は輝いてきらきら光っていました。壁中にダイヤモンドがありました。
- PG 29: “Diamonds! I’m rich!” said the Professor.
“But you can’t get at them,” said Biff.
“Oh bother!” said Professor Tangle. Suddenly the walls of the cave began to shake.

「ダイヤモンドじゃ！ わしは金持ちじゃ！」と教授は言いました。
「でも手に入れられないんじゃない」とビフが言いました。
「やれやれ」とタングル教授は言いました。突然、洞穴の壁が振動し始めました。

- PG 30: Rocks and stones fell all around them.
“We must get out,” said the Professor. “Full speed ahead.”
“Oh no! We aren’t going to make it,” said Wilma.
岩や石がみんなの周り中に落ちてきました。
「我々は逃げ出さなければ」と教授は言いました。「全速力で前進じゃ」
「なんてこと！ 無理だわ」とウィルマが言いました。
- PG 31: The submarine got out just in time.
“Phew! That was close!” said Biff.
“We’re sorry you couldn’t get the diamonds, Professor,” said Chip. Just then the key began to glow.
潜水艦はギリギリのタイミングで脱出することができました。
「やれやれ！ あれは危機一髪だったわ」とビフは言いました。
「ダイヤモンドを手に入れられなくて残念ですね、教授」とチップは言いました。ちょうどその時、鍵が光始めました。
- PG 32: The magic took them back to Biff’s room.
“That was a good adventure,” said Chip.
“We must go home for tea,” said Wilma.
“What’s that?” joked Wilf. “You want to go back to sea?”
魔法は彼らをビフの部屋に連れもどしました。
「よい冒険だったな」とチップは言いました。
「私たちはお茶の時間だから、家に帰らなくっちゃ」とウィルマは言いました。
「何だって？」ウィルフが冗談を言いました。「海に帰りたいの？*」
(*編集部注:「海」=Sea と「お茶」=tea の音が似ている)